

コラム

3. ロータリーとは？ (1) ロータリーをどう説明するか

「ロータリーとは？」と人から真面目に問われた時、我々ロータリアンは、果たしてどう答えるべきでしょう？ この命題について考えていく前に、我々ロータリアンは、普段、“ロータリー”という言葉はどういう意味で使っているのかを考えてみましょう。とりあえず、次の5つのうちから選んでみてください。

- ① (狭義の) ロータリークラブ <各々のクラブ1つ1つを指す場合に使う>
- ②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語
- ③ロータリアン
- ④国際ロータリー (R I : Rotary International)
- ⑤超我の奉仕という人生哲学

私は、上記の5つはどれも正解だと思います。我々は状況に応じて、この5つの意味を使い分けながら、“ロータリー”という言葉の口にしていくように思います。もしかしたら、『⑤超我の奉仕という人生哲学』には疑問を感じる方もいるかも知れません。しかし、この⑤こそ、ロータリーの真の意味だと思っている方も少なくないのです。

それでは、順番に考えていきましょう。最初の『① (狭義の) ロータリークラブ』というのは、ロータリーの各々のクラブ1つ1つを指す時に使います。例えば、「彼女は、うちのロータリーのメンバーです」と言う場合です。この場合、「うちのロータリー」＝「うちのロータリークラブ」という意味で使っています。

一方、『②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語』というのは、分かりづらいかも知れません。しかし、使う頻度としては意外に多いのです。例えば、「ロータリーの歴史」、「ロータリーの職業奉仕」、「ロータリーの原理原則」などと言う場合です。いずれの場合の“ロータリー”も、ロータリークラブの組織全体を抽象した用語として使っています。

例えば、「ロータリーの原理原則」と言う場合のことを考えてみましょう。もちろんこれは、寒河江クラブなど、1つ1つのクラブの原理原則を指しているものではありません。あくまで、ロータリークラブの組織全体の原理原則を指す言葉として使われています。したがって、『① (狭義の) ロータリークラブ』の原理原則ではないのです。同様に、『③ロータリアン』の原理原則ではないということも、容易に分かるでしょう。

もしかしたら、「ロータリーの原理原則」の“ロータリー”は、『④国際ロータリー』という意味だと主張する方もいるかも知れません。しかし、「ロータリーの原理原則」＝「国際ロータリーの原理原則」ではないのです。実際、職業奉仕セミナーなどで、私も立場上、「ロータリーの原理原則」について語ることはありますが、「国際ロータリーの原理原則」を語っているつもりは毛頭ありません。

ロータリーに精通している人の中には、「ロータリーの原理原則」の“ロータリー”は、『⑤超我の奉仕という人生哲学』という意味だと考える方もいるかも知れません。確かに「超我の奉仕という人生哲学」は、ロータリーの原理原則の中で重要な位置を占めています。しかし、ロータリーの原理原則の全てではないでしょう。すなわち、「ロータリーの原理原則」＝「超我の奉仕という人生哲学の原理原則」ではないのです。

次に、『③ロータリアン』について考えてみましょう。例えば、よく耳にする「不行き届きな点については、ロータリーの友情に免じてお許し下さい」という場合の“ロータリー”です。これは、「ロータリアンの友情に免じて」という意味で使っているのではないのでしょうか？ 少なくとも、『①（狭義の）ロータリークラブ』や『④国際ロータリー』や『⑤超我の奉仕という人生哲学』の友情に免じて・・・』という意味で使っているのではありません。もしかしたら、『②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語』として使っていると考える方もいるかも知れません。確かに、それも悪くないような気がします。この辺りは、使っている人の感覚の違いと言ってもよいでしょう。

では、我々が例会でよく暗唱する「ロータリーの目的（綱領）」の場合の“ロータリー”についてはどうでしょう？ 実は、これも『③ロータリアン』という意味なのです。その理由は、「ロータリーの目的（綱領）」の主文と付随4項目は、何が主語として適切かを考えれば分かります。①～⑤の各々5つを主語にして、じっくり読み比べてみてください。そうすれば、『③ロータリアン』が主語として最も適切であることは、容易に理解できるはずです。つまり、「ロータリーの目的（綱領）」＝「ロータリアンの目的（綱領）」なのです。

ここで、最初に示した命題について考えてみましょう。すなわち、「ロータリーとは？」と人から真面目に問われた時、どう答えるべきかという命題です。もちろん、「ロータリーとは、『①（狭義の）ロータリークラブ』のことです」とか、「ロータリーとは、『③ロータリアン』のことです」とかの回答をする人はいないでしょう。では、『②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語』や『④国際ロータリー』のことなののでしょうか？

1976～77年度の国際ロータリー理事会で採択された文書に、次のようなものがあります。

「ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることがを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業及び専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である」

“Rotary is an organization of business and professional leaders united worldwide who provide humanitarian service, encourage high ethical standards in all vocations and help build goodwill and peace in the world”

「ロータリーは (Rotary is)」で始まるこの採択文書を、じっくり読んでみてください。そうすれば、この文書は『④国際ロータリー』の定義そのものであることに気がつくと思います。人によっては、『②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語』の説明と考える方もいるかも知れません。それでも、どちらかと言えば『④国際ロータリー』の定義と考えたほうが、より明確ですっきりするでしょう。

ちなみに、ロータリー章典(33.040.4.)や手続要覧(2013年版)第4章「国際ロータリー」にも、「ロータリーという言葉をそれだけで使う場合、通常、国際ロータリーとしての組織全体を指す(When used by itself, the word “Rotary” normally refers to the entire organization, Rotary International)」とあります。

実際、上記の採択文書は、ロータリーの定義としてあちこちで目にします。しかも、一般人にとっては分かりやすい内容です。それだけに、この『国際ロータリーの定義』(1976~77年度の国際ロータリー理事会で採択された文書)こそ「ロータリーとは？」に対する回答だと、すんなり納得してしまうロータリアンは少なくないような気がします。

ところが、多少なりともロータリーの歴史を知り、ロータリーのなんたるかを学んできたベテランのロータリアンにとっては、「ロータリー」=「国際ロータリー」ではないのです。むしろ、そういう人たちは、「ロータリー」という言葉を『④国際ロータリー』という意味では使いたがらない傾向があります。当然、上記1976~77年度の国際ロータリー理事会による採択文書に対しては、「冒頭にある主語は、“ロータリーは(Rotary is)”では不適切だ。きちんと、“国際ロータリーは(Rotary International is)”と訂正するべきだ」と主張されると思います。もちろん、私もその一人です。

それでは、「国際ロータリーとは？」ではなく、あくまで「ロータリーとは？」と問われた場合、どう回答があるのでしょうか？ 実は、この問いに対して、歴史上、最初に回答を出し、しかも正式に採択された決議文書があるのです。それが、かの有名な決議23-34です。

1923年に採択された決議23-34の1)には、次のように記されています。

1) ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

1) Fundamentally, Rotary is a philosophy of life that undertakes to reconcile the ever present conflict between the desire to profit for one's self and the duty and consequent impulse to serve others. This philosophy is the philosophy of service—"Service Above Self" and is based on the practical ethical principle that "They Profit Most Who Serve Best."

残念ですが、前半の「公式の日本語訳」については、個人的には賛同しかねます。特に、“基盤、根本を成す”という意味での *Fundamentally* が、“基本的には”と訳されているのは疑問です。

以下に、私なりの(分かりやすく要約した)日本語訳を記しました。

<決議23-34の1):要約>

ロータリーの根本は、人生哲学です。それは、実生活上、実に道理にかなった「他者のために懸命に尽くすことが、結果として自らの最大の利益につながる」という言葉を原理原則とした、利己と利他の心を上手く調和させる哲学です。この人生哲学を、超我の奉仕と言います。

いずれにしても、「ロータリーは (Rotary is)」を主語とした決議 23-34 の 1) では、「ロータリー」＝「超我の奉仕という人生哲学」と明確に述べられています。しかも、決議 23-34 は今でも正式な採択決議として残っています。したがって、「ロータリー」＝「超我の奉仕という人生哲学」は、今も正しいものとして生き続けているのです。

ところで、皆さんは Ron D. Burton 国際ロータリー会長の 2013-14 年度 R I テーマを覚えていらっしゃいますか？ そう、「ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を (ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES)」でした。では、この「ロータリーを实践」の“ロータリー”は、どういう意味で使われているのかを考えてみましょう。『① (狭義の) ロータリークラブ』を实践・・・でしょうか？ 『②各々のロータリークラブからなる組織全体』を实践・・・でしょうか？ それとも、『③ロータリアン』を实践？ あるいは、『④国際ロータリー』を实践？ もちろん、どれも的外れと言わざるを得ませんね。つまり、これこそが『⑤超我の奉仕という人生哲学』を实践・・・という意味であり、Ron D. Burton は、ロータリーの真髓を实践しようと提唱したということです。これは、「ロータリー」＝「超我の奉仕という人生哲学」が、今も正しいものとして生き続けている何よりの証拠ではないでしょうか？

誤解されないように、ここで R I の方針について付け加えておきます。2010 年 1 月の R I 理事会で、ビチャイ・ラタクル元 R I 会長の要請により、決議 23-34 (社会奉仕に関する 1923 年の声明) を今後のロータリー章典と手続要覧に含めること、及びそれ以前のそれと反対の決定を無効にすることが決定されました。その際、決議 23-34 の 1) をロータリーの奉仕理念とすることも可決されたのです。すなわち、「ロータリー」＝「超我の奉仕という人生哲学」ではなく、「ロータリーの奉仕理念」＝「超我の奉仕という人生哲学」というのが、現在の R I の方針です。

最後に、本稿の命題「ロータリーとは？」について、以下のようにまとめておきます。

「ロータリーとは？」と人から真面目に問われた時、1976～77 年度の国際ロータリー理事会で採択された「国際ロータリーの定義」を語るのには、一般人に対しては良いでしょう。その説明は、一般人には確かに分かりやすいと思います。しかし、「ロータリーとは？」をロータリアンに対して語る時は、「超我の奉仕という人生哲学」を説明するべきだと思います。なぜなら、それがロータリーの真髓を学ぶことに繋がるからです。

言い換えれば、「ロータリーとは？」と問われたら、一般人に対しては「ロータリー広報」を語り、ロータリアンに対しては「ロータリー情報」を語るべきだということです。

本稿を読んでくださったロータリアンの皆様におかれましては、今後、「ロータリーとは？」という問いについては、1976～77 年度の国際ロータリー理事会で採択された「国際ロータリーの定義」と、1923 年に採択された決議 23-34 の 1) 「超我の奉仕という人生哲学」とについて、きちんと使い分けて聞く (語る) ようにしていいただければ幸いです。

(文責：鈴木一作)